

4. デジタルイノベーションへの対応

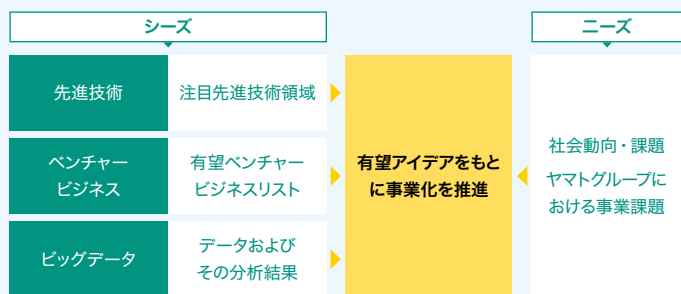


労働力人口の減少やライフスタイルの多様化、技術革新による産業構造の変化など、ヤマトグループを取り巻く外部環境は大きく変化しています。「KAIKAKU 2019 for NEXT100」では、「R&D “+ D”^{*}」機能の強化を通じてデジタルテクノロジーを積極的に取り入れ、新たな事業の創出や既存事業の進化・革新を進めるとともに、既存ビジネスにとって破壊的となり得る新たなビジネスモデルに対して先手を打つことでさらなる成長を目指しています。

^{*} R&D (Research and Development = 研究開発) に “+ D” (Disruptive = 破壊的) を加え、「従来の常識を破壊する」を意味する。

デジタルイノベーション推進室を設置

デジタルトランスフォーメーションを推進し、デジタルビジネスの創造、物流プラットフォームの進化を実現するために、2017年4月、当社内にデジタル・イノベーション推進室 (YDIC) を設置しました。先進技術、ベンチャービジネス、ビッグデータ分析の3つを起点に、社会およびグループにおけるニーズ・課題を解決するビジネス創出に取り組んでいます。



次世代物流サービスに向けた研究開発

新たな空の輸送モード構築へ

当社は、より高品質な配送サービスをお客様に提供するため、米国テキストロン社傘下のベルヘリコプターとの連携を開始しました。次世代のテクノロジーソリューションを駆使し、両社のノウハウを融合させて、空における新たな輸送モードを構築していきます。両社は2020年代半ばまでの実用化を目指しています。



※ イメージ図
ベルヘリコプターの電動垂直離着陸機 APT70
飛行速度：時速160km以上
積載量：35kg (今後実証実験を通じて、450kgまで大型化する可能性あり)

両社の役割

ベルヘリコプター

自立運航型ポッド輸送機の
設計、開発、製造



ヤマトホールディングス

物流ノウハウを活かし
外装式輸送容器(ポッド)を開発